

平成29年第4回大槌町議会定例会

行政報告

平成29年12月8日

大槌町

本日、ここに平成 29 年第 4 回大槌町議会定例会が開催されるに当たり、9 月定例会以降における町政運営について、御報告を申し上げます。

1 はじめに

東日本大震災津波の発生から 6 年 9 ヶ月が経過しようとしております。改めて震災で犠牲になられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

9 月以降、立て続けに発生した台風の本町も襲われました。特に台風 18 号では、応急仮設住宅を含む一部住家への床下浸水や、農林水産業施設、公共土木施設への被害などがありました。この場をお借りして被災された皆様に改めてお見舞い申し上げます。自然災害を始めとする有事への備えを怠らず、災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

東日本大震災津波からの復興は、面整備の進捗とともに、新しいまちの土台の上に、住宅や商店の再建が進んでおり、誘致企業も本格稼働するなど、着実に前進しております。また、中心市街地の新たな顔となる公共施設として、(仮称)御社地エリア復興拠点施設の建設を進めており、多くの皆様に慣れ親しんでいただける施設となるよう、一般公募により愛称を「おしゃっち」と決定しました。

引き続き、一日でも早く、全ての町民の皆様が安心して暮らしていける環境を整えるとともに、コミュニティや地域のにぎわいを再生し、復興まちづくりの完成に向けて取り組んでまいります。

さて、去る11月11日、東京都において本町出身や所縁のある方々131名が参加し、「ふるさと大槌会 2017」が盛大に開催されました。今回は、創立30周年の節目にあたり、これまでの会の歩みをまとめた記念誌が発行されたほか、東海大学文学部歴史学科講師であり、大槌町文化財保護審議委員でもある兼平賢治先生による「前川善兵衛」の講演があり、大槌町の歴史文化の魅力を再認識したところでもあります。また、交流会では、大槌町のフラガールサークル「マカナ・アロハ」やおおつちバラエティショー出演の「安渡二丁目 ALWAYS」が発表し、震災以前と変わらない賑わいを取り戻すべく、元気に活動している大槌町を紹介できました。会には元派遣職員からなる「職員OB 関東大槌会」の皆さんも参加いただいております。帰任してもなお、遠く離れた大槌町を気にかけて、応援していただいていることにこの場をお借りし、改めて心から感謝申し上げます。

以下、町政運営の概要について御報告申し上げます。

2 国等への復興に向けた働きかけ

まず、国等に実施した要望について申し上げます。

去る11月2日に沿岸市町村長で構成する岩手県沿岸市町村復興期成同盟会において復興庁と岩手県選出国會議員へ町の実情をお伝えし、被災市町村が抱える重要課題の11項目を要望いたしました。

特に町に関する事項として、確実な復興を進めるための財政支援の継続、財源確保と日本司法支援センター岩手地方支援事務所大槌出張所「法テラス大槌」の存続については町から強く要望したところであります。

また、11月18日には石井国土交通大臣へ道路整備等に関する重点課題の4項目を要望しており、今後も機会があるごとに、国等に対して、事業推進の要望を行ってまいります。

3 定住自立圏について

次に、定住自立圏形成の取組状況について申し上げます。

定住自立圏形成協定の締結に向け釜石市との本格的な議論を続けており、去る10月16日には、大槌町と釜石市の地域関係者との意見交換を行い、11月22日には具体的な連携事業の検討を町・市の職員による連絡会で実施しております。

今定例会では、総務省の定住自立圏形成構想推進要綱の規定に基づく「大槌町定住自立圏形成協定の議決に関する条例」の制定について上程しております。今後、定住自立圏について引き続き、町・市相互の自主性と自立性を尊重しながら、本格的な議論を進めてまいりたいと考えております。

4 大槌町空き地バンク及び補助制度について

次に、大槌町空き地バンク、宅地取得、住宅建設に関する補助制度の状況について申し上げます。

10月26日、制度の利用促進に向けた住宅メーカーへの説明会を実施し、10社の参加をいただいております。登録状況については、11月末現在、売りたい又は貸したい方の物件登録は22件、買いたい又は借りたい方の利用者登録が12件あり、このうち、1件契約成立、9件商談中となっております。

補助金については、土地区画整理事業区域内に既に住宅建設した89件のうち、85件に対し住宅建設補助金を交付しております。

今後も、制度の円滑な運用を図り、物件登録促進につながる広報掲載や住宅再建未定の地権者へ向けた制度の周知など、更なる制度の利用促進に取り組んでいくことを通じて、市街地再生を推進してまいります。

5 旧役場庁舎の取り扱いについて

次に、旧役場庁舎の取扱いについて申し上げます。

これまで、旧役場庁舎の取扱いについては、議会をはじめ、様々な方々から御意見をいただき、真摯に対応してまいりました。

震災津波伝承の取組みについても、今年度は、震災アーカイブの構築や震災検証結果を公表したほか、この度、震災記録誌の編纂や、鎮魂の森の基本計画の策定に着手したところであります。

また、今年10月に、県内外の震災遺構に取り組む自治体を訪問しました。首長と会談するとともに、現地を確認する中で、旧役場庁舎の解体について、より一層、思いを強くしたところであります。

震災伝承には、様々な考えがあることは承知しておりますが、旧役場庁舎については、あの場で多くの犠牲者が出ており、目にすることに耐えがたい思いを感じる方々がいらっしゃることを考えると、私は、被災自治体の長として、まず第一に、そういった方々の気持ちに寄り添うべきであると考えます。旧役場庁舎を解体しても、これまでの取組み、これからの取組みで東日本大震災津波の悲惨さ、教訓を「忘れない」「伝える」そして「備える」に繋げることができるものと考えています。

今後、旧役場庁舎の解体については、丁寧にご説明申し上げた上で、来年3月定例会に解体費用を補正予算として計上する方向で調整したいと考えています。

6 空間環境基盤

(1) 主な復興事業の進捗状況

次に、主な復興事業の進捗状況について申し上げます。

土地区画整理事業につきましては、使用収益開始率が、町方地区は前回報告から23ポイント増の92%、安渡地区は13ポイント増の44%、吉里吉里地区は5ポイント増の99%、赤浜地区は8ポイント増の71%となっており、いずれの地区においても早期に住宅建築ができるよう進めてまいります。

防災集団移転の宅地整備につきましては、前回報告から変わらず356宅地が完成、進捗率は84%となり、随時引渡しを行っております。

漁業集落防災機能強化事業の宅地造成につきましては、浪板地区で全ての宅地が引き渡し済みであり、赤浜地区についても、宅地の造成は完了しており、現在進めている接続道路の工事が完了次第、宅地の引き渡しを行う予定となっております。

災害公営住宅の整備については、11月末現在、全体計画戸数 885 戸に対し、558 戸が完成し、進捗率は 63.1%となっております。今後も、早期完成に努めてまいります。

(2) 循環型道路網整備

次に、循環型道路網整備について申し上げます。

循環型道路網整備については、町道三枚堂大ケ口線(仮称)三枚堂大ケ口トンネルの掘削を昼夜2交替制で実施しています。11月末現在で全体の55%に当たる約560メートル掘り進んでいます。去る12月6日には大ケ口側住民への工事説明会を開催し、掘削現状、騒音対策、貫通時期等をお知らせしているところです。順調に進めば平成30年5月頃には貫通予定となります。平成31年3月末の完成に向けて安全に工事を進めてまいります。

また、大柱橋架替工事については、現在の橋の下流の仮橋・仮道を通行していただいている状況です。現橋の撤去が完了したため、橋脚設置工を進めております。利用者の皆様には不便をおかけしますが、トンネルと同様に、安全に工事を進めてまいります。

(3) 防災減災の取り組み

次に、防災減災の取り組みについて申し上げます。

避難路整備については、区画整理事業等で住宅再建が加速化している町方末広町地区等において、町方地区避難路整備工事に着手しております。今後とも、緊急性と事業実施の可能性を精査した上で、順次整備を進めてまいります。

防災拠点となる公共施設の整備につきましては、緊急時における非常用大型発電施設を中央公民館の駐車場に設置いたしました。今回の防災設備は、非常時の災害対応のみならず、館内の消火栓等にも自動的に配電され、火災時の備えにも対応できるシステムにもなっております。中央公民館が非常時における当町の災害対策の拠点として、また避難所として機能の充実が図られるものと期待しております。

ソフト面の対策としては、町民の方々の防災への意識高揚と地域間及び行政との連携強化を図るため、10月7日、第2回自主防災連絡会を開催しました。防災に関する情報提供や組織からの要望、情報交換を行い組織活動の活発化を進めております。加えて、去る11月5日に国連総会で定められた「世界津波防災の日」に、全町一斉の津波避難訓練を実施しました。訓練の反省点を踏まえ、来年度についても、より災害時の実効力に主眼を置き、効果的な訓練になるよう見直しを行ってまいります。今後も防災、減災の要である自助、共助による地域防災力を高める取り組みを進めてまいります。

本町において、震災発生から6年9ヶ月が経過した現在、未だ400名を超える方々が行方不明となっております。9月11日に海上保安庁、県警機動隊、釜石大槌消防本部水難救助隊及び大槌町消防団のおよそ120名による蓬莱島周辺の潜水捜索、吉里吉里周辺の陸上捜索を実施しましたが、残念ながらいずれも遺留品等の発見には至りませんでした。

(4) (仮称) 御社地エリア復興拠点施設及び集会所

次に、(仮称) 御社地エリア復興拠点施設の進捗について申し上げます。

本施設につきましては、10月7日に上棟式を執り行い、来年春の完成に向け、工事安全を祈願すると同時に、施設内部を一般に公開し、多くの方に御来場いただきました。また、内部に整備する震災伝承施設については、展示コンテンツの収集や詳細設計を実施しております。

次に、11月27日に工事が完了した小枕地区集会所につきましては、現在、地域住民の皆様と施設の管理方法や活用について話し合いを進めているところであります。

(5) 斎場整備

次に、斎場整備の状況について申し上げます。

斎場整備につきましては、現在、斎場建設予定地の造成に関する検討、都市施設として都市計画に定めるための手続きを進めております。

人生の終焉において厳粛に最後のお別れをする場として、ふさわしい施設となるよう、早期の完成を目指し、整備を進めてまいります。

(6) 水道未普及地区対策事業

次に、水道未普及地区対策事業について申し上げます。

水道未普及地区において安定的な飲用水の確保が困難な町民を対象に、大槌町水道未普及地区対策事業補助制度を4月から施行しております。

現在までの補助金申請件数は4件となっており、他にもお問い合わせを頂いているところです。

飲用水確保でお困りの方々におかれましては、一日も早くこの制度を利用し、快適な生活を送って頂きたいと思っております。

7 社会生活基盤

(1) 子ども子育て支援

次に、子ども子育て支援について申し上げます。

町内では、保育園1園及び幼稚園1園の計2園が認定こども園へ移行する動きがあり、来年度の開園に向けて準備を進めているところであります。町としても、こども園への移行を推進するため、開園に向けた支援を行ってまいります。

また、町立安渡保育所については、今後の町の保育・教育サービスを効率的・効果的に充実・強化していく必要性や、町内の保育・教育施設環境の状況等を総合的に勘案し、平成 29 年度末をもって廃止することといたします。

(2) 障がい者福祉

次に、障がい者福祉について申し上げます。

町では、障がい福祉サービスの事業量やその確保策等を定める実施計画である「大槌町障がい福祉プラン」の策定を進めており、障がいのある方やその御家族の皆様が、地域の中で安心して暮らせるよう取り組んでまいります。

(3) 民生委員の確保

次に、民生委員の確保について申し上げます。

民生委員については、現在、欠員の状態が続いております。民生委員や関係機関と連携しながら候補者の掘り起しを行っているところであり、引き続き欠員解消に努めてまいります。

(4) 大槌町健康まつり

次に、大槌町健康まつりについて申し上げます。

平成 29 年度大槌町健康まつりを去る 9 月 9 日、役場多目的会議室を会場に実施しました。

歯科保健をメインテーマとし、岩手医科大学歯学部との協力のもと、「お口のがん検診」の実施やむし歯のない子どもの表彰、食改協による歯に良いおやつを試食のほか、肺がん検診や骨粗鬆症検診等を実施したものであり、今後とも機会をとらえ健康づくりへの普及啓発を図ってまいります。

(5) 介護・高齢者福祉施策の展開

次に、介護・高齢者福祉施策の状況について申し上げます。

介護・高齢者福祉施策の状況につきましては、10月30日に第1回大槌町介護保険事業計画策定委員会を開催し、作成した素案及び概要版の説明をいたしました。委員から出された意見などを踏まえまして、12月22日には住民を対象とした説明会を実施する予定となっております。

また、認知症施策としては、9月22日に吉里吉里学園、9月26日に大槌学園の4年生とその保護者を対象に認知症サポーター養成講座を開催したほか、10月29日には大ケ口地区において「ご近所みんなで声掛け訓練」を実施し、中高生を含む50名の参加があり、認知症の正しい知識と接し方について住民の皆様とともに考える良い機会となりました。

このほか、高齢者のみならず、若年層から地域で支え合う意識の醸成を目指し、毎年「大槌町鶴亀川柳コンクール」を実施しており、6年目となる今年度は、「自慢」をテーマに現在作品を募集しております。

(6) 応急仮設住宅支援

次に、応急仮設住宅への支援について申し上げます。

先般、岩手県から、東日本大震災復興事業の進捗状況に関し、県内の応急仮設住宅などの入居者数が、最も多く入居していた平成 23 年 10 月時点から約 2 割まで減少し、入居者が初めて 1 万人を下回ったとの発表があったところでもあります。

応急仮設住宅から恒久的な住宅への移行が着実に進んではおりますが、当町では、11 月末現在、787 世帯、1,520 人が未だ入居を余儀なくされており、震災から 7 度目の冬を応急仮設住宅で過ごす実情にもあります。

これからより一層、厳しくなる冬期間を入居者の方々がしっかり乗り越え、来春を迎えていただくため、見守り支援をはじめ、冬期間に起こりやすい水道管凍結などの住環境管理にも確実に対応するほか、再建に不安や悩みを抱える入居者の方々お一人お一人に寄り添った支援に努めてまいります。

(7) 大槌型コミュニティ総合支援

次に、大槌型コミュニティ総合支援について申し上げます。

はじめに、自治会立ち上げ支援であります。これまでコミュニティ形成の核となる自治会の立ち上げ支援を実施し、各地域に町内会・自治会が設立されております。

12月3日には新たに、防災集団移転促進事業で造成された小枕・伸松地区に「小枕地区自治会」が設立されるとともに、集会所の落成式も同日行われ、今後、集会所を拠点としたコミュニティ活動に期待をし、コミュニティ形成に向けた活動への支援も併せて実施してまいりたいと考えております。

次に、災害公営住宅への移行期支援であります。御社地に完成する災害公営住宅が来年2月から入居が始まります。入居者のコミュニティ形成は元より、既存住民との融和を図ったコミュニティが形成されるよう、地域住民をはじめ、地域コーディネーターや社会福祉協議会、NPOなどの支援団体と連携し、議論を重ねながら地域住民にとって最良なコミュニティ形成が図られるよう支援を進めてまいります。

次に、心の復興事業による支援であります。本年度は18の支援団体が、応急仮設住宅や災害公営住宅などの集会所を活用し、お茶っこサロンや手芸などのものづくり、運動教室などを開催し、特にも閉じこもりがちな高齢者の孤立を防ぎ、人と人とのつながり、生きがいの創出に向け、様々な支援を展開しているところであります。

その中でも、NPO法人ソーシャルハーツが行う、数字パズル「数独」は、高齢者に大変人気が出ており、9月9日には、世界初となる「第1回数独技能認定試験」が当町で開催され、町内外から108名の方々に参加いただきました。

数独は、子どもから高齢者まで楽しめ、多世代交流にも活用できるとともに、認知症予防にも効果があると言われていたことから、今後、当町の介護予防事業における活用についても検討を進めてまいります。

8 経済産業基盤

(1) 農林水産業の振興

次に、農林水産業の振興について申し上げます。

農業の振興については、最優先の課題として取り組んでおります、昨年の台風10号に伴う災害復旧事業において、国の補助対象の農地や農業用施設における災害復旧工事は、入札不調が続いておりましたが全ての発注を終わらせたところであります。

また、岩手オリジナル米「銀河のしずく」の栽培実証が町内の水田において行われ、食味等の検査基準を満たす高品質米の生産が確認できましたことから、農家の所得向上・食の安全安心につながるブランド米の作付を推進してまいります。有害鳥獣の対策として実施しているニホンジカの駆除については、11月末現在で昨年度実績の2倍を超える185頭を捕獲しております。

林業については、本年9月に発生した台風18号によって被災が確認されました林道の早期復旧に向けて作業を進めており、林道城山2号線の災害復旧については、11月上旬に国の災害査定を受け、事業費が確定しましたので、工事発注等の手続きに着手しております。

地元産材の活用促進を図る大槌町産材等利用住宅促進事業補助金においては、住宅再建と連動し順調に推移し、11月末時点で19件、520万円を交付しております。また、町有林を計画的に活用する対策として、平成26年度に町有林を売却した新山の跡地にカラマツ2,000本を植林したところであります。

水産業の振興については、全国的にサンマやサケ等の水揚げ数量が低迷している状況の中、魚市場への水揚げ数量の増加を図るため、廻来船の誘致活動を実施したほか、水揚げ向上策として、ギンザケ、一本釣りのカツオ、船凍イカといった新魚種の市場上場化を展開しました。

併せて魅力ある商品開発を図るため、ふるさと納税の返礼品制度と連携し、水産系商品の充実化を進めております。

漁業担い手の育成については、国庫事業の使途協議の調整が終了したことから今後の育成プログラムの作成に向け準備を進めております。

また、水産加工業の衛生管理面の強化については、順次、企業を訪問し、現地視察及び助言を継続して実施しております。

(2) 商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

商工業者の本設再建の動きを加速させるため、10月にテナント施設整備補助金及びなりわい支援補助金を創設し、新たなにぎわいづくりに取り組み始めました。

また、新規事業者の創出については、大槌町起業促進補助金を活用した新規起業者が、既に6件の実績が出ているところであります。今後も国・県の起業支援制度と合わせ、なりわい支援補助の周知を図りながら、新規起業者の創出を図ってまいります。

商工業の振興に向けては、商工会、金融機関などの関係機関と協力連携し、相談支援及び補助金、融資制度、税制等優遇制度などを組み合わせて活用することにより、事業者による取組みを後押ししてまいります。

(3) 企業誘致の促進と雇用対策の強化

次に、企業誘致の促進と雇用対策の強化について申し上げます。

企業誘致の促進と雇用対策の強化については、用地の供用開始時期を見据えた企業誘致活動を引き続き進めるとともに、既に立地した企業については、販路拡大に向けた支援や働き手確保に向けた支援を実施してまいります。

また、雇用のミスマッチや労働力不足の課題については、県やハローワーク等の関係機関・事業者とも連携しながら、水産加工業の宿舍確保に要する経費の補助、町内の生徒が進学した学校への訪問による就職状況の意見交換、「就職相談会」出張窓口、シニア世代の就職支援に向けたイベントの開催、UIターンの促進に向けた助成制度など、働き手の確保や、潜在労働力の掘り起しに向けた施策を推進しております。

(4) 観光振興の更なる促進

次に、観光振興の更なる促進について申し上げます。

今年度も9月15日から17日までの3日間、大槌まつり実行委員会主催の「大槌まつり」が開催され、昨年度に引き続き、大槌町役場前にお祭り広場を設けまして、ステージにて郷土芸能の披露を行うなどし、町内外から約18,000人のお客様にご来場いただきました。

また、環境省が設定する「みちのく潮風トレイル」の大槌町区間約24kmが8月10日に開通しました。新たに開通した大槌町区間を町内外の皆様にご案内するため、10月20日にウォークイベントを開催し、約40人の方々に御参加いただきました。

このほか、本年は新巻鮭の祖、大槌孫八郎政貞の没後400年にあたり、改めてふるさと大槌の鮭にまつわる歴史、文化などを振り返る機会にするとともに、大槌町のシンボルである「鮭」と当町発祥の特産品「新巻鮭」など食の魅力を町内外に広く発信し、観光振興及び地域活性化につなげることを目的として、今年度は鮭にまつわる重層的なイベントを実施してまいります。

11月13日には、町内の子供達を対象に大槌町の魚「鮭」について、実食を通じて理解を深めることを目的とし「鮭の日給食会」を実施しました。

また、12月3日に開催した「おおつち鮭まつり」では、鮭のつかみどりや特産品販売、鮭料理を楽しめる企画などを実施し、約5,000人のお客様にご来場いただきました。

来年2月25日に開催する「鮭文化祭」では、鮭の歴史文化などを題材としたシンポジウムや鮭にまつわる劇の披露を予定しています。今後も、町民、関係団体、事業者等と連携しながら町の復興と観光を盛り上げていけるよう取り組んでまいります。

(5) ブランド化の推進

次に、ブランド化の推進について申し上げます。

町産品の知名度向上については、「いわておおつち鮭まつり」として町の魚である「鮭」をPRすることを目的に、12月6日から9日には県のアンテナショップである「いわて銀河プラザ」で、また、12月15日から17日には盛岡市内の百貨店で特産品販売及びPRを関係者一体となって行う予定としております。

「新巻鮭発祥の地おおつち」として効果的な情報発信を行い、大槌町の知名度向上と、特産品の販路拡大・ブランド化に繋がるよう取り組んでまいります。

9 教育文化基盤

(1) 教育振興

次に、教育行政の動向について申し上げます。

10月には、大槌・吉里吉里両学園の文化祭が行われました。劇や合唱など子どもたちの一生懸命な姿は、多くの来場者に感動を与えました。

また、10月15日には大槌学園を会場に、大槌教育未来会議が行われました。文部科学大臣補佐官の鈴木寛先生をお招きし、100名以上の参加のもと、地区子ども会や部活動、郷土芸能の今後の在り方について、活発な議論がなされました。参加者からは、このような機会を今後も続けてほしいという声をたくさんいただいております。

11月7日、盛岡において文科省主催の「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」が行われ、本町におけるコミュニティ・スクールの活動について発表しました。

今回、「ふるさと科」を核としたコミュニティ・スクールの取組が認められ、大槌町教育委員会地域学校協働本部が文部科学大臣賞を受賞しました。昨日、文部科学省において表彰式が行われたところです。

11月10日には、震災後初となる吉里吉里学園の学校公開が行われ、県内外から200名もの方々が集まりました。本町の「豊かな育ち」と「確かな学び」の実現を目指した小中一貫教育の取組が、子どもたちの力になっていることを発信することができました。

姉妹都市間生徒交流については、9月15日から22日の間、フォートブラック市から10名の訪問団が来町し、ホームステイや大槌祭り・学校訪問などを通して友好を深めました。11月12日にはマストにおいて報告会と写真展を開催しております。

9月13日に発生しましたスクールバス事故につきましては、現在、子どもたちは元気に学園へ通っておりますが、今後も心のケアのサポートを続けてまいります。また、事故を受け、スクールバス全車にドライブレコーダーを設置したほか、10月からは運行业者と教育委員会で毎月会議をもち、情報を共有しながら安全運行に努めているところです。

10月12日の議会全員協議会で報告しました、平成28年度事業に係る不適切な事務処理につきましては、10月中に未払い分全ての入金を完了しました。現在、再発防止のため、チェック体制の強化に努めているところです。

(2) 町民文化祭

次に、町民文化祭について申し上げます。

11月3日から5日にかけて、第46回大槌町民文化祭が開催されました。城山公園体育館では、民謡やコーラス等の舞台発表が行われたほか、中央公民館では、書道、絵画、写真等の展示部門が開かれ、多くの町民の皆さんが会場に足を運ばれました。

また、今年も大阪府の河内長野市民の会との文化交流の一環として、当文化祭に絵画・書道等の作品が出展されました。今回は、児童生徒の作品ばかりではなく、成人の方々の作品も展示され、その出来栄えに来場者も大変に感心を寄せておりました。

(3) 町立図書館の整備

次に、町立図書館の整備について申し上げます。

来年6月に新しい町立図書館を開館する予定であります。新図書館の準備が本格化するため、12月から現在の城山図書室は閉館とさせていただくことに御理解をお願いいたします。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、条例制定や補正予算案等を御提案申し上げます。

何卒よろしく御審議の上、議員各位並びに町民の皆さまの御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。